

**仲間と切磋琢磨し
世界で活躍する選手へ**

川本武史選手は5歳のころ、兄の影響で近所のスイミングスクールへ通い始めた。意外なことに、最初は水が怖かったそう。『コーチに抱っこされてプールに入っていた記憶がありません』と話す。同世代と競い合いつつ、水泳に夢中になっていった。小学1年で選手コースへ。年上に囲まれながら必死で練習し、小学3年のとき、全国大会に初出場。以後、全国大会の常連となる。

2011年に名門・豊川高校へ進学。瀬戸市の実家を離れて寮生活となり、水泳づけの日々を過ごす。高校時代、初めて出場した国際大会での背泳ぎ優勝に続き、全国高等学校総合体育大会では背泳ぎで2連覇を収めた。

「豊川高校は強豪でしたが、高校総体での総合優勝はなく、先輩たちもそれが目標でした。高1、高2のときは数点差で優勝を逃し、高3で悲願の全国制覇を達成できました」。チームが一致団結して得た勝利。仲間と一緒に戦う喜びを感じた。

**バタフライを強化し
オリンピックをめざす**

中京大学進学後、本格的にバタフライに取り組んだ。「専門は背泳ぎでバタフライの練習量は少なかったのですが、試合での世界との差は小さく、オリンピックを狙えると思います」。川本選手は、いま、バタフライ特有のドルフィンキックで世界

**挫折を乗り越え
手中に掴んだ代表の座**

大学卒業後、トヨタ自動車株式会社に入社。社会人1年目は結果が出せず、ケガも重なり苦しい思いをした。「上司や競技活動をサポートしてくれる方たちの支えもあり、徐々に結果が付いてきました」。雪辱を果たしたい東京オリンピック。しかし、世界中がコロナ禍に見舞われ延期に。ステイホーム期間中は泳げない時期もあったが、家族と過ごす時間がパワーになった。1歳になる愛

娘の存在も大きい。また、昨夏、北島康介さんが結成した「東京フロッグキングス」の一員として、クラブ世界一を決める国際水泳リーグ「ISL」に参戦。世界のトップスイマーを相手に、確かな手ごたえと自信を掴んだ。その後、50m、100mバタフライで日本新記録を達成。5年ぶりに自己ベストも更新した。



水泳を始めたころ。一緒にスイミングスクールに通った兄・雄太さんは、理学療法士として川本選手の競技生活をサポートしている



2012年の高校総体。男子学校別対抗で豊川高校が初優勝を飾る(左)



中京大学時代。副キャプテンを務め、チームを引っ張った(前列左端)



「東京フロッグキングス」では、萩野公介選手や入江陵介選手などのオリンピックメダリストとともに1カ月間同じ環境で練習し、試合に臨んだ

満を持して迎えた東京オリンピック代表選考。100mバタフライの準決勝では、51秒00の日本タイ記録をマーク。決勝でも派遣標準記録を突破して2位となり、念願の五輪切符を手にした。「決まった時はうれしさより安堵の気持ちが大きかった。リオを逃し悔しい思いをしたからこそ、今の自分があると思います」。

**大好きなふるさとへ
スポーツで恩返しを**

「瀬戸が大好き」という川本選手。「帰省時に中華料理をテイクアウトした際、大将とおかみさんから『頑張つてね』と声をかけていただきました」と笑顔を見せる。「子どものころは、せものまつりが楽しみでした。まちの落ち着いた雰囲気や歴史は誇りです」とふるさとを語る。

「藤井聡太さんで盛り上がりつつあるように、自分が立役者となりスポーツで地域を活性化できればと思っています。地元の方に頑張っている姿を見ていただき、応援してもらえればうれしい。それが自分自身の力にもなります」と言葉に力を込める。めざすは東京オリンピックの表彰台だ。

地元の方に頑張っている姿を見ていただき、応援してもらえればうれしい。



アサヒトセト
読者5名様に
川本選手オリジナル
バブルティプレゼント!!
コンテンツページにある
今月のコーチングツバキ
をさがせ!QRコードから
応募ください

応援を力に変えて挑む
100分の1秒の戦い

[巻頭特集] 瀬戸市出身 競泳 Takeshi KAWAMOTO

川本武史 選手

バタフライを専門とする川本武史選手。しなやかなで力強いドルフィンキックと、上半身のパワーあふれるストロークから生み出されるスピードを武器に、国内外で活躍している。周りの応援やサポート、そして、内に秘めた負けず嫌いの闘志を原動力に5年越しの夢である東京オリンピック代表の座を手に入れた。

川本選手の母校
瀬戸市立南山中学校の生徒から
応援メッセージが届きました!

川本選手へ
昨年からはとどの部活動の大会がコロナ禍のため中止になってしまいました。しかし、川本選手の五輪代表内定の朗報を聞き、活気を取り戻すことができました。私たち南山中学校生徒一同、川本選手の後輩として全力で応援しています。頑張ってください!



中学生から川本選手に Q&A

- Q 中学生の時はどんな生活をしていましたか?水泳と勉強の両立は?
A 中学生の時は、豊田市のスイミングまで電車で通っていたので、電車内で勉強をしていました。
- Q 大会前に緊張をほくすためにしているルーティーンや習慣などはありますか?
A 大会中にやらなければならないポイントを事前に考えておくことで、当日の迷いを無くし、緊張を減らすことにつながります。
- Q ラスト10mの苦しいところでどうやって自分を奮い立たせていますか?
A 自分をサポートしてくれている人を思うことで、練習中は厳しいことにもチャレンジしています。試合中はなにも考えません。
- Q 好きな言葉やモットーはありますか?
A 人事を尽くして天命を待つ、逆境は英雄をつくる
- Q 水泳の魅力は何ですか?どうすれば水泳が得意になりますか?
A 水の中で行うスポーツなので、小さな人でも水の抵抗を減らす技術、水に力を伝える技術があれば海外の大きな選手にも勝つことができるのが魅力です。水泳を好きになることで得意になります。

川本選手からのメッセージ
地域の子どもたちへ
コロナ禍でまともに練習できず、大会が中止になることも多いと思います。そのなかでも、自分の目標や夢がブレないようにしてほしい。みんなはまだ先が長いので、目標を決め、今できることを精一杯努力し続ければ、きっと明るい未来が待っています。あきらめずに強い心をもって頑張ってください。

profile
川本武史 トヨタ自動車所属

1995年2月19日生まれ。瀬戸市立南山中学3年時に全国中学水泳競技大会で優勝。豊川高校時代は2・3年時に高校総体で優勝。中京大学進学後、バタフライを強化し3年時に世界水泳日本代表に選出。2018年世界短水路選手権100mバタフライ6位。東京オリンピック競泳男子100mバタフライ代表に内定。50m、100mバタフライの日本記録保持者



↑プライベートでは一児の父。家族と過ごす時間も大切にしている



↑川本選手の最新情報はツイッターをチェック!

自粛期間明け、初の試合となった日本短水路選手権。50m、100mバタフライの2種目で日本新記録を達成し優勝